

平均正答率（平均正答数）

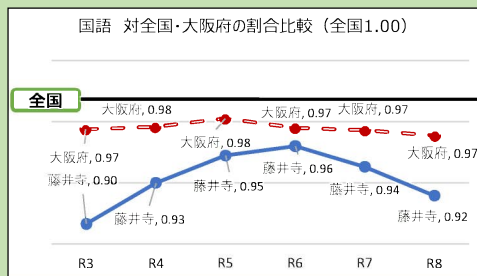
教科	国語		算数	
藤井寺市	56	(7.3/13問)	53	(8.5/16問)
大阪府	59	(7.7/13問)	56	(9.0/16問)
全国	60.9	(7.9/13問)	56.4	(9.0/16問)

「全体の平均正答率」と「対全国との割合比較」

国語



※対全国比（全国の平均正答率を1とした場合の、藤井寺市（大阪府）の平均正答率を割合で表したもの）



全国の平均正答率を1とした時の本市全体の平均正答率の割合を見てみると、全国平均、府平均を下回った。
経年変化で見ると、令和6年度まで改善傾向にあったが、全国平均と差が開いた。

			藤井寺市	大阪府	全国
学習指導要領の領域	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	59.4	64.4	66.8
		(2) 情報の取扱い方に関する事項	49.1	51.4	52.3
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	—	—	—
	思考・判断・表現	A 話すこと・聞くこと	61	63.9	65.8
		B 書くこと	44.1	43.8	45.7
		C 読むこと	60.5	65.3	65.9

国語科の成果と課題

○成果 ●課題 () 内は平均正答率

- 学習指導要領の領域【思考・判断・表現】「B書くこと」については、全国平均を下回ったものの、府平均を上回った。
- 考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるかどうかを問う問題（49.6%）では、府・全国平均正答率を上回った。
- 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかを問う問題（57.9%）では、全国平均水準であり府平均を上回った。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかを問う問題（27.6%）では、府・全国平均正答率を大きく下回った。

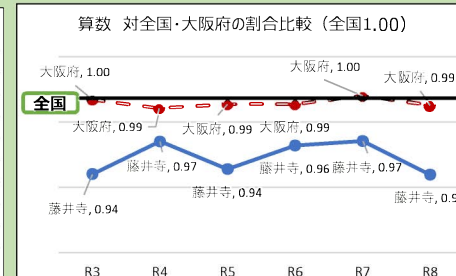
実施日 令和8年4月23日（木）

実施学年及び対象者数

対象	藤井寺市		大阪府		全国	
	学校数	対象者数	学校数	対象者数	学校数	対象者数
小学校6年生	7校	456人	966校	67,993人	18,126校	922,411人

※文部科学省は、「各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計」とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、「過年度の結果と単純に比較することは適当ではないことに留意が必要」としています。

算数



全国の平均正答率を1とした時の本市全体の平均正答率の割合を見てみると、全国平均、府平均を下回った。
経年変化で見ると、全体として大きな変動は見られず、概ね横ばいの傾向にある。

		藤井寺市	大阪府	全国
学習指導要領の領域	A 数と計算	59.4	61.1	61.1
	B 図形	47.6	54.2	55.3
	C 測定	78.6	77.6	78.1
	D 変化と関係	38.1	40.6	41.1
	D データの活用	46	48	48.6

算数科の成果と課題

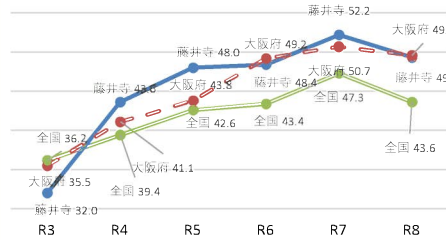
○成果 ●課題 () 内は平均正答率

- 「測定」の領域では、示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができるかどうかを問う問題（78.6%）では、府・全国平均正答率を上回った。
- 「数と計算」の領域では、小数が整数と同じ十進法位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかを問う問題（94.5%）では、全国平均水準であり府平均を上回った。
- 「図形」の領域では、立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかを問う問題（58.3%）、直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうかを問う問題（57.0%）、体積の意味について理解しているかどうかを問う問題（33.4%）では、府・全国平均正答率を大きく下回った。

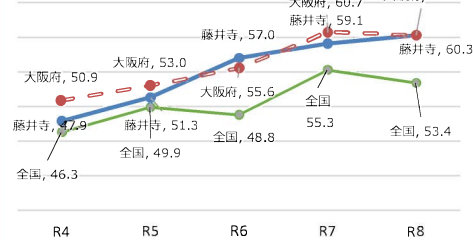
自己肯定感

今年度の調査結果分析と取組について

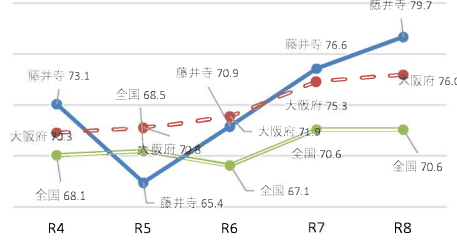
自分にはよいところがあると思いますか。
（強い肯定的な割合）



先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
（強い肯定的な割合）



困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。（肯定的な割合）



「自分には、よいところがあると思いますか」に対する強い肯定的な回答が全国を大きく上回っています。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対する強い肯定的な回答についても、全国を大きく上回っています。各校での、子どもの自己肯定感を高める特色ある取組の成果が見られます。「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対する肯定的な回答が全国を大きく上回っています。日常的な声かけや対話を大切にするなど、教員と子どもの信頼関係が構築されている成果が見られます。

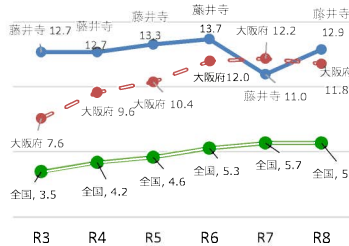
家庭学習

不読率

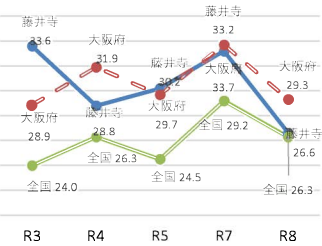
スクリーンタイム

朝食

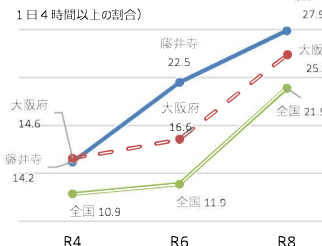
平日の家庭学習
（全く勉強をしない児童の割合）



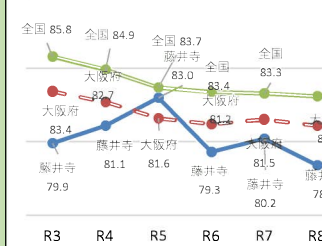
普段（平日）1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。（全く読書を読まない割合）



普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などをしますか（1日4時間以上の割合）



朝食を毎日食べていますか



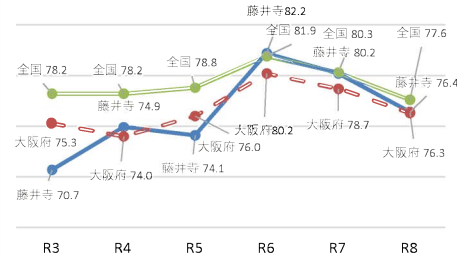
基本的な生活習慣・学習習慣に課題が見られます。家庭学習を「全くしない」児童の割合が全国と比べて多いことから、学校外で学習する習慣が十分に身につけていないことが考えられます。不読率については、全国と同等ですが、児童が本に触れる時間は依然として少ないままです。スクリーンタイムの長時間化については、家庭でルールを考える機会を持つなど、児童が自ら利用方法を見直し、適切に自己管理できる力を育成することが重要だと考えます。朝食の喫食率が下降傾向にあることから、生活リズムの乱れが学習面にも影響している可能性があります。

主体的に学ぶ力

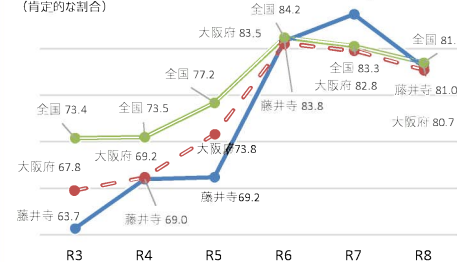
協働し解決する力

探究的な学び

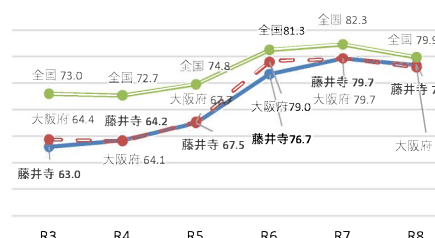
課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思いますか。（肯定的な割合）



あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。（肯定的な割合）



総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか（肯定的な割合）



「主体的に学ぶ力」「協働し解決する力」について、全国と同等の回答結果となりました。各校での実践が結果に表れています。引き続き、児童が主体的に学び、対話を通して学びを深める魅力ある授業づくりを進めます。「探究的な学び」については、全国との差が改善傾向にあります。今後も、自ら問いを立て、試行錯誤しながら課題を解決していく探究的な学びを推進していきます。